

人文学部卒業研究

題目 **高校演劇の魅力
～脚本チームに密着して～**

指導教授 **三摩 真己** 印

提出年月日 **2019年 3月 3日**

学籍番号 **HI15046**

氏名 **長屋 勇輝**

卒業制作テーマ
『高校演劇の魅力 ～脚本チームに密着して～』

HI15046 長屋勇輝

要旨

この卒業制作は、2018年5月28日から夏の地区大会まで密着し、三重県暁高校演劇部の演劇作品制作が出来上がり、地区大会突破までに起こる高校生たちの絆や青春を追ったドキュメンタリー作品である。

私は高校時代に、彼らと同じく暁学園高等学校に通っていた。当時私は合唱部に所属しており、演劇部と関わることは決して多くなかった。しかし、文化祭での公演を見る、合唱活動でミュージカルをする時に演劇部を参考にするなどの関わりから、演劇の素晴らしさをしばしば感じ取ることが出来、私の心も魅了された。そんな高校演劇の魅力を伝えたいと思い、この卒業制作を作るに至った。

この作品、「高校演劇の魅力～脚本チームに密着して～」は、高校演劇の夏の地区大会で上位4校に入賞し、次の中部大会出場を目指すという目的のため、脚本作りを担当するチームの代表である山中愛子（以下、山中とする）に焦点を当てた物語である。

しかし、脚本を作る過程で、様々な困難が立ちはだかり、脚本が一向に完成しないまま本番一週間前を迎えてしまう。山中は脚本が中々完成しないことから部員へ申し訳なさを感じ、涙を流していた。そんな山中に仲間達は手を差し伸べ、助け合い、協力し、無事脚本を完成させ、見事中部大会出場の切符を手に入れたという内容になっている。

副論文の構成は以下の通りである。第1章ではまず、なぜこのテーマで、高校演劇部の映像作品を作ろうとしたのかを記述した。第2章ではこの映像を誰に見て欲しいのか、見た人にどのようなこと伝えたいのかを記述している。第3章では映像作品の構成を記し、映像の場面ごとに補足説明や、その意図の解説を記述した。第4章では暁高校演劇部取材し、それをまとめた映像制作を通じ、仲間の大切さや青春という素晴らしさを改めて感じた。そこれでこれからの自分にどのような効果を起こしたのか、これを観た人に私と同じ効果を起こしてもらいたい、という思いから記述している。

キーワード

高校演劇、困難、助け合い、仲間の大切さ、青春

目次

1. なぜこのテーマを選んだのか	1
2. ねらい	1
3. 構成	1
3.1 オープニング	2
3.2 タイトル	2
3.3 学校紹介	2
3.4 暁高等学校演劇部	3
3.4.1 顧問の先生が生徒たちを見て	3
3.5 作品作りの工程の説明	3
3.6 脚本チーム	3
3.6.1 脚本チームの現状、代表山中愛子インタビュー	4
3.6.2 キャスト達の練習	4
3.7 1週間後の脚本締切日と問題発生	4
3.7.1 問題点についての山中愛子インタビュー	5
3.7.2 脚本についてのミーティングとセリフ決め	5
3.8 本番8日前 四日市三浜文化会館にて	5
3.8.1 脚本完成に至らず	5
3.8.2 脚本がない部員の思い	6
3.8.3 山中愛子の涙の思い	6
3.9 2日後、脚本最終審査日、脚本完成で山中愛子の仲間への思い	7
3.9.1 完成したストーリーの説明	7
3.10 大会当日、地区大会会場にて	7
3.10.1 楽屋入り	7
3.10.2 暁演劇本番「あけよ」	7
3.10.3 結果発表	8
3.11 エンディング	8
4. 作品制作を通じて感じたこと	8
【参考映像作品】	8
【参考WEBサイト一覧】	9
付録1：構成表	i
付録2：台本	2